

## 口腔機能の向上説明用資料案（口腔乾燥）

- ③口の渇きが気になりますか 1. はい  
⑤話すときに舌がひっかかりますか。 1. はい

口をあまり動かさないでいるとつば(唾液)の出る量が少なくなり、口が渇くようになります。口が渇くと舌の動きがなめらかでなくなり、舌が引っかかりやすくなります。お薬の影響でつばが出にくくなることがあります。口腔機能の向上の健口(口腔)体操や唾液腺マッサージによりつば(唾液)の出る量が増えて、口の乾きがよくなり、舌の動きがなめらかになります。

つば（唾液）はこんな大切な働きをしています。

### 1. 食べ物を飲み込みやすくします。

つば(唾液)が出ていないと、食べ物をうまくかみ砕くことができません。

つば(唾液)はかみ砕かれた食べ物をまとめて飲み込みやすくします。

### 2. 味を感じやすくする

つば(唾液)は食べ物の味物質を溶かして舌の味を感じる器官(味蕾)で味を感じやすくします。乾いた舌の上に食塩をのせても塩味は感じません。味を楽しむには唾液が大切です。

### 3. 口の中を清潔に保つ

つば(唾液)は食べ物のかすを洗い流して、口の中をきれいにします。口が渇くと口の中が汚れやすく、口臭の原因にもなります。

### 4. 口の中をなめらかにする

舌もなめらかに動き、会話しやすくなります。

### 5. でんぷんを消化する

ご飯をよくかんでいると、つば(唾液)の中の酵素がでんぷんを麦芽糖(マルトース)に分解して甘みが出てきます。つば(唾液)はでんぷんを吸収しやすい形に変えます。

### 6. その他

つば(唾液)には抗菌作用やむし歯を防ぐ作用があります。

## 口腔機能の向上説明用資料案（口腔衛生）

- ⑦口臭が気になりますか。 2. はい  
⑧薄味がわかりにくくなりましたか 2. はい

歯や入れ歯をきれいにすることは簡単ではありません。歯だけでなく入れ歯や舌もきれいにする必要があります。歯がなくても口の中をきれいにすることが必要です。口腔機能の向上により一人一人にあった口の手入れの仕方がわかります。口の手入れは家庭でも続けられる有効な口腔機能の向上の手段です。

お口を上手にきれいにするとこんなよいことがあります

### 1. 食べ物がおいしくなります

舌に汚れがたまっていると舌の味を感じる器官（味蕾）の働きを邪魔します。舌をきれいにすると、味の感覚が鋭くなり、薄味でもおいしく食べられるようになります。

### 2. 口の中がさっぱりとします

口の中の汚れが多くても気がつかず、きれいになって初めて違いに気づく場合が少なくありません。きれいにできると口の中がさっぱりとした感じになります。口腔機能の向上できれいになった気持ちよさを体験でき、違いがよくわかるようになります。

### 3. 口や頬の筋肉のストレッチになります

歯みがきや舌をきれいにするときには口を大きく開けたり、歯ブラシで頬や口をひっぱったりしてストレッチになります。唾液も多くでできます。

### 4. 歯周病やむし歯を防ぎます

歯の汚れはむし歯や歯周病の大きな原因です。入れ歯の汚れは歯肉の腫れや口内炎の原因になります。

### 5. 口臭を予防します

歯や舌の汚れは口臭の原因になります。口臭は自分では気がつかないことがあります。

### 6. 口の中の細菌を減らして肺炎を予防します

口の中の細菌が原因となって起こる肺炎（嚥下性肺炎）を予防します。

厚生労働科学研究補助金（長寿科学総合 研究事業）

口腔機能の向上の実施体制と評価に関する研究

分担研究報告書（平成 20 年度）

口腔機能の向上様式例の改良及び口腔機能向上用ツール作成に関する研究

研究代表者	大原 里子（東京医科歯科大学）
研究分担者	北原 稔（神奈川県茅ヶ崎保健福祉事務所）
研究協力者	日本歯科衛生士会
	木村 年秀（三豊総合病院 歯科保健センター）
	関根佳代子（神奈川県労働衛生福祉協会）
	高橋 史彦（東京医科歯科大学）
	長島 聡美（神奈川県三崎保健福祉事務所）

#### 研究要旨

本研究は「口腔機能の向上」の円滑な実施の大きな阻害要因の対策として、前年度試作した口腔機能の向上様式例の改良および平成 21 年 4 月の口腔機能向上マニュアルの改訂版に記載する有効なツールを作成することを目的としている。「口腔機能の向上」サービスを実際に担当している歯科衛生士を対象に、前年度試作した簡素化した様式例および対象者抽出のためのチェックシート、説明用資料等の改良に関する意見を収集した。意見をもとに作成した改良案を提示して、再度意見を収集した。メールまたは FAX にて意見の回収を行った。意見を参考に案を作成し、また、口腔機能向上の普及のために地域で独自に作成し効果をあげている資料を収集した。

その結果作成された様式例改良案は、従来の様式例と比較して種類と量を大きく削減し、必要性の高い項目は維持し、記入方法も簡略化した。記入に要する時間は半減すると考えられ、また記入漏れも少なくなると考えられる。この改良案は平成 20 年 7 月 29 日付けの事務負担軽減通知で示された様式例の原案となった。

口腔機能チェックシートへの意見はほとんどなかった。説明用資料は絵を入れて見やすいものに改良した。これらは口腔機能向上マニュアルの改訂版に記載された。

本研究で作成した様式例改良案は必要性が高い項目は維持された、簡潔でわかりやすく使用しやすいものであり、事務負担は半分以下に軽減される。この様式例改良案を使用することにより、口腔機能向上の普及を妨げている大きな阻害要因が解消され、「口腔機能の向上」の円滑な実施が促進されと考えられる。また、要支援者や要介護者の口腔機能向上の対象者抽出のためのチェックシートと説明用に資料の使用により、「口腔機能の向上」の対象者の増加とサービス利用を受諾する割合が増加する可能性があると考えられる。

## A. 研究目的

平成18年度から地域支援事業、予防給付、介護給付に「口腔機能の向上」が新規メニューとして導入されたが、その実績は低い状況に止まっている。前年度までの調査により、「口腔機能の向上」の円滑な実施の大きな阻害要因として、記入を要する書類の種類や量が多いこと、対象者の要件がわかりにくいこと、必要性の説明が難しいこと等が明らかとなった。阻害要因の対策が重要であり、本研究はその改善策と平成21年4月の口腔機能向上マニュアルの改訂版に記載する有効なツールを作成することを目的としている。

## B. 研究方法

### 1. 対象

日本歯科衛生士会に所属し、「口腔機能の向上」サービスを実際に担当している東京都、神奈川県、新潟県、愛知県、愛媛県、長崎県の歯科衛生士等。

### 2. 調査期間と方法

平成20年8月～平成21年1月まで、日本歯科衛生士会等の協力により、現行の様式例、前年度試作した歯科専門職以外でも利用可能な対象者抽出のためのチェックシート、必要性の説明用資料等の改良に関する意見を収集した。意見をもとに改良案を作成し再度意見を収集した。メールまたはFAXにて意見の回収を行った。

また、口腔機能向上の普及のために地域で独自に作成し効果をあげている資料を収集した。

#### (倫理面への配慮)

調査項目は、「口腔機能の向上」において、様式例、対象者抽出用チェックシート、説明用資料等に対する意見であり、サービス利用者等に介入を行うものではない。また、調査結果は集計され、個人情報に含まれない。

## C. 調査結果

### 意見の主要な内容

#### 1. 様式例について

- ①指導管理計画に続いて実施記録の欄があるとよい。
- ②専門職のアセスメントに続いて総合評価の欄があるとよい。
- ③総合評価に効果が多くみられる事項を示して、それをチェックする欄があれば、利用者、家族、介護職等への効果の説明がし易い。
- ④事業またはサービスを継続しないことによる口腔機能の低下のおそれの有無を記録する欄があるとよい。
- ⑤必要に応じて実施する検査項目には必須でないことの明記が必要である。都道府県による指導の際に不備と指摘される例があった。
- ⑥サービスの説明と利用を受諾した日時や説明担当者名を記録する欄が必要である。都道

府県による指導の際に不備と指摘される例があった。

⑦関連職種が毎回質問と観察を行うのは利用者の負担になるので、回数を減らすことが望ましい。

## 2. 口腔機能チェックシートについて

変更が必要との意見はほとんどなかった。

## 3. 説明用資料について

①詳しい説明をしなくても見てすぐにわかるものが良い。

②字だけではなく、絵を入れて見やすいものが良い。

## 4. 口腔機能向上の普及のために地域で独自に作成し効果をあげている資料について

①「口腔機能の向上」の特定高齢者の要件、判断基準の写真、RSSTの実施方法等をA4の1枚に使いやすくまとめたもの。

②デイサービス利用者・家族に向けた口腔機能向上の利用をわかりやすく呼びかけたチラシ。

③デイケア利用者・家族に向けた口腔機能向上の利用をわかりやすく呼びかけたチラシ。

## D. 考察

実際に意見を参考にして様式例、口腔機能チェックシート、説明用資料の改良を行った。今回の調査により、事務負担が大きいことがサービス提供事業所の実施の阻害要因となるだけでなく、現在「口腔機能向上加算サービス」を実施している事業所が、都道府県の指導で書類の不備を指摘され、その実施の取りやめを検討する要因ともなっていることが判明した。加算サービスを実施する事業所が少ないことが、口腔機能向上の普及を妨げている大きな要因である。従って、様式例を改良し、事務負担を軽減し、加算サービスを実際に提供する事業所の増加を図ることは緊急の課題である。必要とされる事項を厳選し、記入漏れも防止できる様式例により、事業者の事務負担は大きく軽減され、サービス提供の取りやめを防止し、新規に実施する事業所の増加に効果があると考えられる。

また、本研究により試作した、歯科の専門知識を必要としない要支援者や要介護者の口腔機能向上が必要な対象者を抽出する口腔機能チェックリストを、使用することにより、口腔機能向上の対象者が増加すると思われる。また、わかりやすい説明用資料の使用により、サービス利用を受諾する割合の増加も期待できる。

口腔機能向上の普及のために地域で独自に作成し効果をあげている資料は使いやすく、それを参考にすることにより、それぞれの地域に適した効果的な普及啓発資料の作成が容易となると考えられる。

## E. 結論

本研究で作成した様式例改良案は必要性が高い項目は維持された、簡潔でわかりやす

く使用しやすいものであり、事務負担は半分以下に軽減される。この様式例改良案を使用することにより、口腔機能向上の普及を妨げている大きな阻害要因が解消され、「口腔機能の向上」の円滑な実施が促進されと考えられる。また、要支援者や要介護者の口腔機能向上の対象者抽出のためのチェックシートと説明用に資料の使用により、「口腔機能の向上」の対象者の増加とサービス利用を受諾する割合が増加する可能性があると考えられる。

#### F. 研究発表

なし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

なし

#### 参考文献

- 1) 厚生労働省老健局老人保健課長通知（平成20年7月29日老老発第0729001号）

## 口腔機能のチェックシート

### ◆ 口腔機能向上プログラムの目的とは？

「食べる」「話す」「笑う」「呼吸する」など、私たちが生きていく上で重要な役割を果たしているのが口腔機能です。食べ物をかむ機能や飲み込む機能は年を重ねるにつれて低下します。「固いものがかみにくい」「口がかわく」「むせることが多くなってきた」などを感じたとき、「とし」だからとあきらめてはいませんか？ その口腔機能低下に歯止めをかけることが、口腔機能向上プログラムの目的です。

以下に示すチェックシートを使って、ご自分の「口腔機能」をチェックしてみてください。また、ご自分では気がつかないことがあるので、ご家族や介護者の方、ケアプラン作成担当者の方も「注意する点」を確認してください。

ご本人様（ご家族様）へのお尋ね

①から⑪まであてはまる方に○をつけて下さい。

- |                                  |              |          |
|----------------------------------|--------------|----------|
| ①固いものが食べにくいですか                   | 1. はい        | 2. いいえ   |
| ②お茶や汁物等でむせることがありますか              | 1. はい        | 2. いいえ   |
| ③口がかわきやすいですか                     | 1. はい        | 2. いいえ   |
| ④薬が飲み込みにくくなりましたか                 | 1. はい        | 2. いいえ   |
| ⑤話すときに舌がひっかかりますか                 | 1. はい        | 2. いいえ   |
| ⑥口臭が気になりますか。                     | 1. はい        | 2. いいえ   |
| ⑦食事にかかる時間は長くなりましたか               | 1. はい        | 2. いいえ   |
| ⑧薄味がわかりにくくなりましたか                 | 1. はい        | 2. いいえ   |
| ⑨食べこぼしがありますか                     | 1. はい        | 2. いいえ   |
| ⑩食後に口の中に食べ物が残りやすいですか             | 1. はい        | 2. いいえ   |
| ⑪自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりと噛みしめられますか |              |          |
| 1 a. どちらもできない                    | 1 b. 片方だけできる | 2. 両方できる |

#### 注意する点

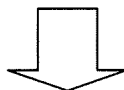
- |                               |        |       |
|-------------------------------|--------|-------|
| A. 汚れ（歯、入れ歯、舌）                | 1. あり  | 2. なし |
| B. 口臭                         | 1. あり  | 2. なし |
| C. 口元の表情の豊かさ（笑顔）              | 1. 乏しい | 2. 豊か |
| D. 会話の問題（発音がはっきりしない、しゃべりにくい等） | 1. あり  | 2. なし |
| E. 飲み込んだ後の口の中に食べ物が残っている       | 1. あり  | 2. なし |

（1、1 a、1 b）のいずれかがある場合は口腔機能が低下している可能性が高く、口腔機能向上サービスの利用について検討する必要があります。

図 6-1 <説明用チャート>

口腔機能のチェックシートで、次の項目に該当した方は・・・

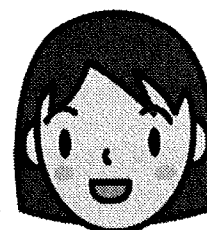
①固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
⑦食事にかかる時間は長くなりましたか	1. はい
⑩左右の奥歯でかみしめができますか	1 a. どちらもできない 1 b. 片方だけできる
C. 口元の表情の豊かさ	1. 乏しい



食べ物を噛んで処理する働き（咀嚼機能）が  
低下しているようです

柔らかいものばかり食べていると筋肉の力がますます弱くなります。かむ力が弱くなると食事に長い時間がかかるようになります。

唇の筋肉が弱くなり、唇の端を引き上げられない場合は、笑顔には見えません。



「口腔機能の向上」の口の体操やかむトレーニングでかむ筋肉を鍛えると、筋肉の力が強くなります。トレーニングは、まず専門のスタッフに指導を受けてから始めましょう。



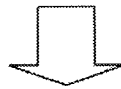


図6-2 よくかむことにはこんな効果があります！！



図 6-3 口腔機能のチェックシートで、次の項目に該当した方は・・・

③口がかわきやすいですか	1. はい
⑤話すときに舌がひっかかりますか。	1. はい
D. 会話の問題（発音がはっきりしない、しゃべりにくい等）	1. あり



### お口の中がかわいているようです

口をあまり動かさないでいると、つば(唾液)の出る量が少なくなり、口がかわくようになります。口がかわくと舌の動きもなめらかでなくなり、食物の味わいや飲み込みが悪くなり、口臭も出やすくなります。お薬の影響でつばが少なくなることもあります。そんな時に「口腔機能の向上」のお口の体操や唾液腺マッサージによりつば(唾液)の出る量が増えて、口のかわきがよくなり、舌の動きがなめらかになります。

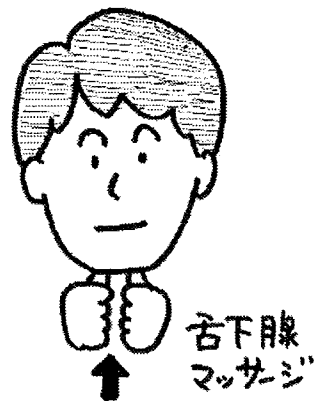
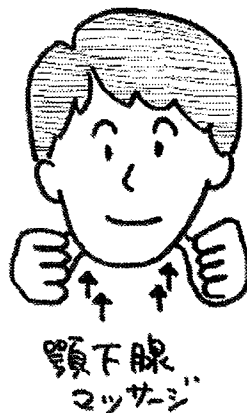
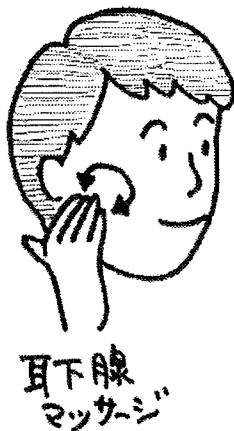
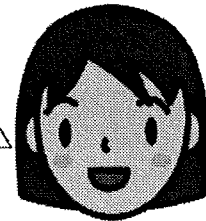
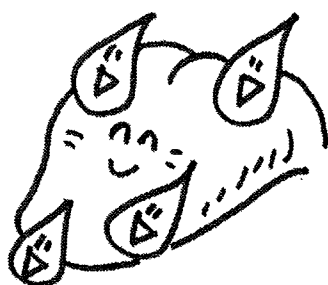
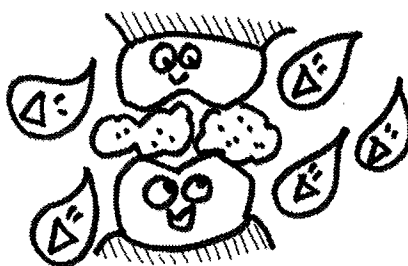


図 6-4 つば（唾液）はこんな大切な働きをしています。

### 食べ物を飲み込みやすくします

つば（唾液）が出ていないと、食べ物をうまくかみ砕くことができません。つば（唾液）はかみ砕かれた食べ物をまとめて、飲み込みやすくします。



### 味を感じやすくする

つば（唾液）は食べ物の味物質を溶かして、舌の味を感じる器官（味蕾）で味を感じやすくします。かわいた舌の上に食塩をのせても塩味は感じません。味を楽しむには唾液が大切です。

### 口の中を清潔に保つ

つば（唾液）は食べ物のかすを洗い流して、口の中をきれいにします。口がかわくと汚れやすくなり、口臭の原因になります。



### 口の中をなめらかにする

舌もなめらかに動き、会話しやすくなります。



### でんぷんを消化する

ご飯をよくかんでいると、つば（唾液）の中の酵素がでんぷんを麦芽糖（マルトース）に分解して、甘みが出てきます。つば（唾液）はでんぷんを吸収しやすい形に変えます。



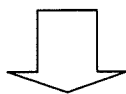
### その他

つば（唾液）には抗菌作用やむし歯を防ぐ作用があります。



図 6-5 口腔機能のチェックシートで、次の項目に該当した方は・・・

⑥口臭が気になりますか。	1. はい
⑧薄味がわかりにくくなりましたか	1. はい
A. 汚れ（歯、入れ歯、舌）	1. あり
B. 口臭	1. あり



### お口の中が汚れているようです

歯だけでなく入れ歯や舌もきれいにすることや、歯がなくても口の中をきれいにすることはおいしく食べるために重要です。「口腔機能の向上」により、一人一人にあった口の手入れのコツがわかります。

口の手入れは家庭でも続けられる、効果的な「口腔機能の向上」のトレーニングです。

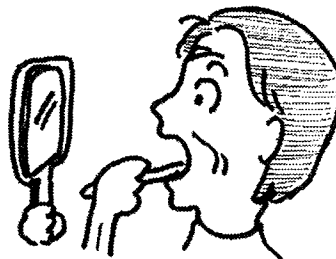
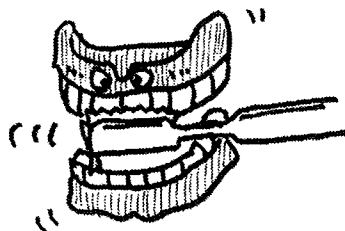
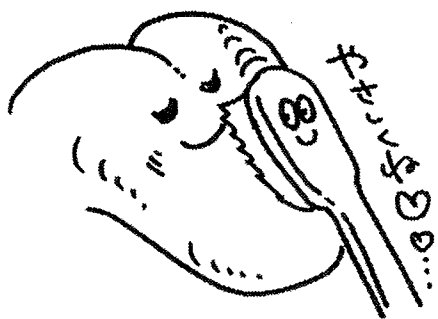
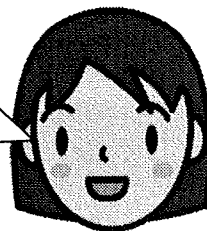
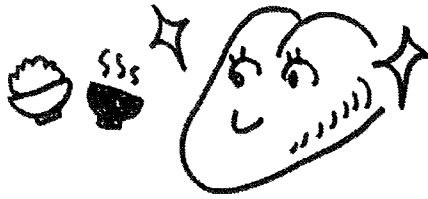


図 6-6 お口を上手にきれいにするとこんなよいことがあります

### 食べ物がおいしくなります

舌に汚れがたまっていると、舌の味を感じる器官（味蕾）の働きを邪魔します。舌をきれいにすると、味の感覚が鋭くなり、薄味でもおいしく食べられるようになります。



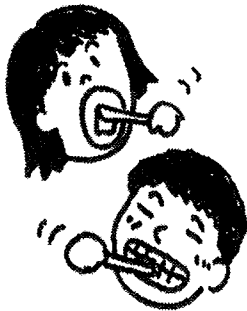
### 口の中がさっぱりとします

口の中の汚れ気がつかず、きれいになって初めて違いに気づく場合が少なくありません。きれいにできると、口の中がさっぱりとした感じになります。「口腔機能の向上」できれいになった気持ちよさを体験しましょう。



### 口、頬、舌の筋肉のトレーニングです

歯みがきの時に口を大きく開けたり、歯ブラシで頬や口をひっぱってストレッチしましょう。唾液も多く出てきます。ブクブクうがいで、唇、頬、舌の筋肉をきたえます。



### 歯周病やむし歯を防ぎます

歯の汚れはむし歯や歯周病の大きな原因です。入れ歯の汚れは歯肉の腫れや口内炎の原因になります。



### 口臭を予防します

歯や舌の汚れは口臭の原因になります。口臭は自分では気がつかないことがあります。



### 口の中の細菌を減らして肺炎を予防します

口の中の細菌が原因となって起こる肺炎（嚥下性肺炎）を予防します。

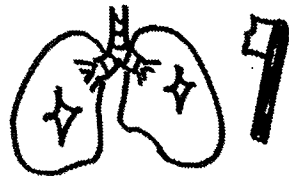


図 6-7 口腔機能のチェックシートで、次の項目に該当した方は・・・

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| ②お茶や汁物等でむせることがありますか      | 1. はい |
| ④薬が飲み込みにくくなりましたか         | 1. はい |
| ⑨食べこぼしがありますか             | 1. はい |
| ⑩食後に口の中に食べ物が残りやすいですか     | 1. はい |
| E. 飲み込んだ後の口の中に食べ物が残っている。 | 1. はい |



飲み込む働き（嚥下機能）が  
低下しているようです

食べ物や飲み物をゴックンと飲み込む一連の動きは、実にたくさんの神経や筋肉が連携して食道に送り込む作業なのです。この神経や筋肉が衰えると、飲み込む行為が不十分になり、飲み込みにくくなり、むせやすくなります。

たとえば、飲み込む前の動きとして、口を閉じる力が落ちると食べこぼしが多くなります。また、舌や頬の動きが悪くなると、喉のほうに運びにくくなり、飲み込んだ後でも口の中に食べ物が残るようにもなります。

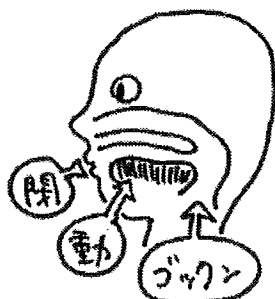
「口腔機能の向上」により、飲み込みやすいように準備ができ、飲み込むときのむせが減って、薬も飲み込みやすくなります。口を閉じる力も強くなり、舌や頬の動きも良くなります。



図 6-8 飲み込みにはのどの部分だけでなく、お口の中も大切な働きをします。

飲み込みに関係する口の重要な働き

①口がしっかり閉じて、舌が正しく動く！



口がとじていない場合は、かわりに舌が口の開いた部分をふさいで飲み込むようになり、舌は正しく動けません。

口腔機能の向上の健口（口腔）体操や舌の体操により、口を閉じる力や舌の力、頬の力を強くすることができ、飲み込みやすくなります。

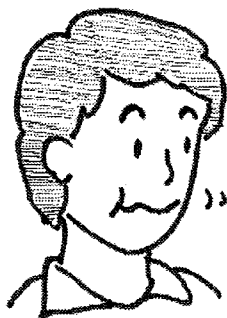
②つば（唾液）がよく出る！



つばにはかみ砕かれた食べ物を1つの軟らかい塊にして、飲み込見やすくする働きがあります。

口腔機能の向上の健口（口腔）体操や唾液腺マッサージにより唾液の出る量が増え、飲み込みやすくなります。

③よく噛める！



大きな固まりよりも小さくかみ砕かれた食べ物の方が、飲み込みやすくなります。  
奥歯がかんだ状態の方が飲み込みやすくなります。

舌や頬の力や感覚が低下すると、食べ物が舌や頬の下にたまりやすくなります。飲み込んだ後にも食べ物が口の中に残るようになります。

口腔機能の向上の健口（口腔）体操やかむ練習によりかむ機能を高め舌や頬の力を強くすることで、飲み込みやすくなります。

# 対象者の選定基準(口腔機能の向上)

No.	質問項目	回答	
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1.はい	0.いいえ
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1.はい	0.いいえ
15	お口の中の乾きが気になりますか	1.はい	0.いいえ

①

「1. はい」に2つ以上  
○がついた場合

視診による歯垢・食物残渣、舌苔及び官能検査(検査者の嗅覚による検査)による口臭(他覚臭)の測定

②

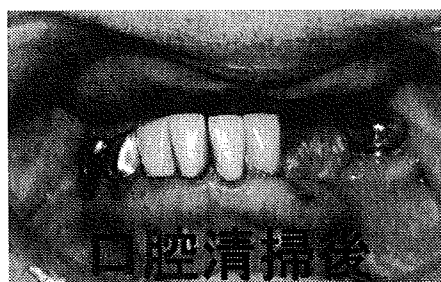
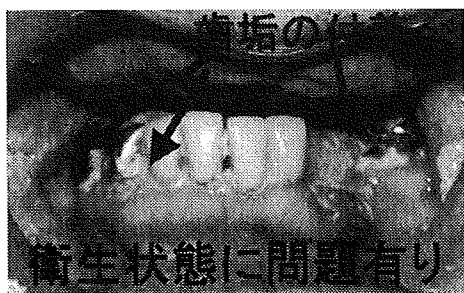
口腔衛生状態の問題を確認

反復唾液嚥下テスト(RSST)  
(30秒間に何回唾液を飲み込めるかを測定)

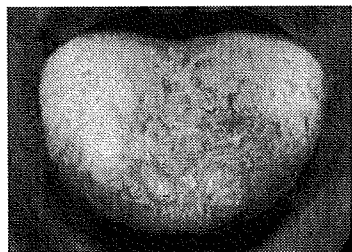
③

・3回未満

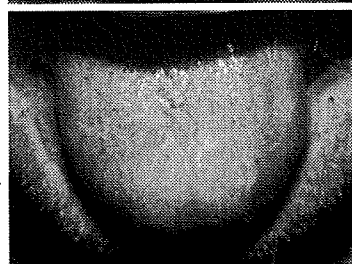
視診による口腔内の衛生状態(歯垢・食物残渣)



舌苔の付着



衛生状態  
問題なし

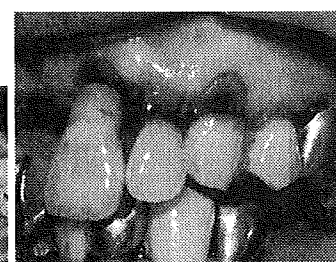


口腔機能向上プログラム実施

むし歯



根面のむし歯



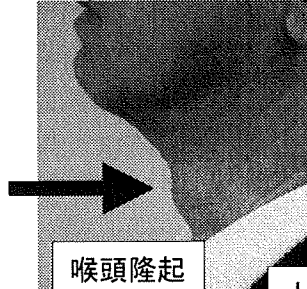
①②③のいづれかに該当



RSST 反復唾液嚥下テスト

「できるだけ何回も“ごっくん”と繰り返して飲み込んでください」と指示をして、30秒間にできる飲み込みの回数を数える

2回以下が該当



喉頭隆起



人差し指と中指の腹で喉頭隆起を挟み嚥下時に人差し指を乗り越えるを触知する

(資料提供: 木村年秀先生)



# 口腔ケアが肺炎や低栄養を防ぎます

## 口腔ケアの意味

### ①食べる楽しみ

お年寄りの最大の楽しみは食事です。お口の中をきれいにすると味覚が改善し、食べる楽しみが増します。

### ②低栄養の予防

栄養不良の高齢者にお口の機能のトレーニングをすることで栄養状態が改善します。

### ③肺炎・感染症の予防

お口の中を清潔に保ち、飲み込みの機能をおとろえないようにすることは、肺炎やインフルエンザなどの感染症の予防につながります。

### ④生活動作能力の向上

健康な高齢者が日常生活能力を保持するためには歯みがきなどの口腔ケアを自立して行うことが大切です。

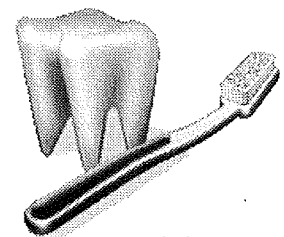
〇〇では、口腔機能向上プログラムを実施しています！

ご希望の方は職員に声をかけてください。

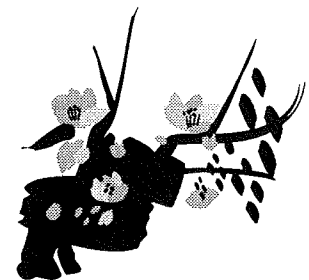
お口の機能チェックリスト

ふたつ以上当てはまる人は口腔機能向上にGO!!

あてはまらなくても、お口の機能が低下している恐れのある場合は利用をお勧めします。



1. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか？	
2. お茶や汁物などでむせることがありますか？	
3. お口の渇きが気になりますか？	



(資料提供: 木村年秀先生)

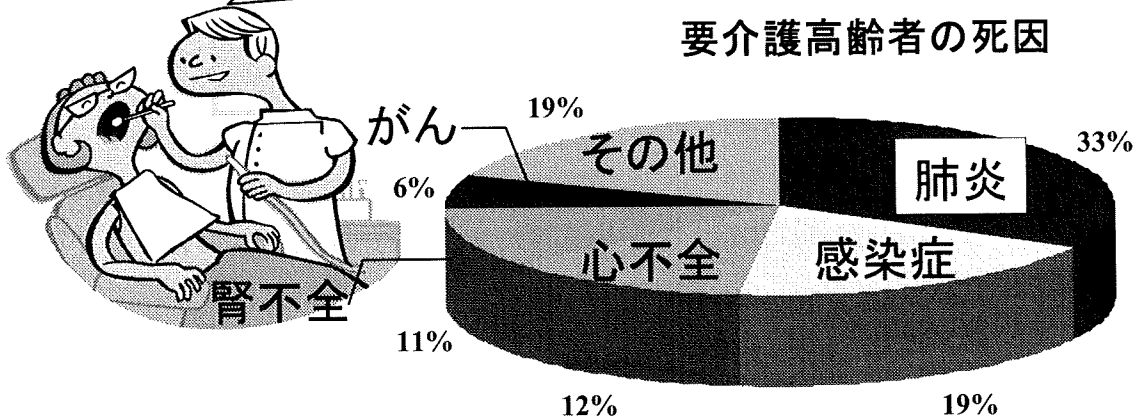
(資料提供:木村年秀先生)

# お口の寝たきりを防ぎましょう

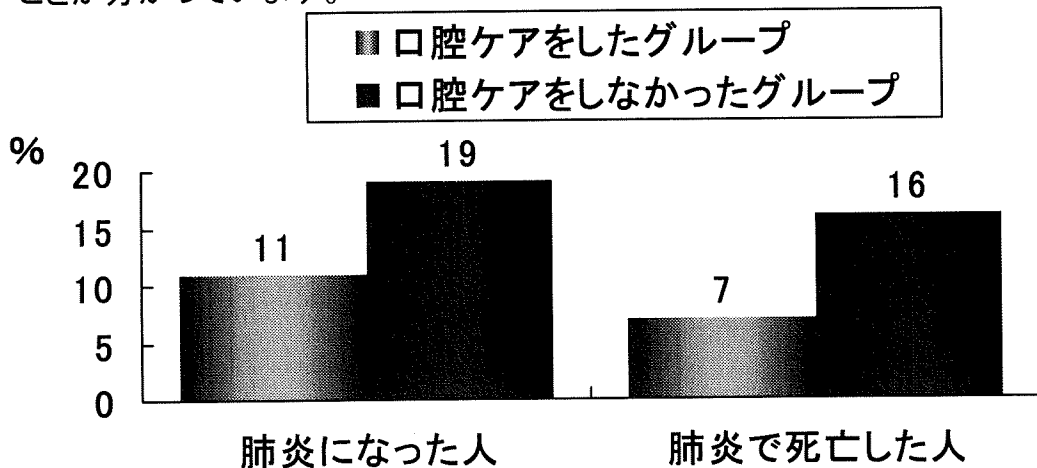
お口の「そうじ」を忘れていませんか？  
お口の中は、ばい菌だらけ！

お口の中のばい菌が肺に侵入すると・・・

介護が必要な高齢者の死因の  
トップは肺炎です。



お口に、ばい菌がたくさん残っていたり、かんだり飲み込んだりするお口の働きの低下は、肺炎や栄養不良の原因になります。お口の中を清潔にすることや飲み込みのトレーニングで肺炎を予防できたり、栄養状態が良くなる事が分かっています。



厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）

研究報告書(平成 20 年度)

効率的な要支援者・要介護者の口腔機能向上の対象者の抽出方法に関する研究

研究代表者 大原里子（東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部）

研究協力者 日本歯科衛生士会

研究要旨

潜在化している要支援者・要介護者の口腔機能向上の対象者を、利用者や介護関係者に新たな負担を生じない効率的に抽出する方法を明らかにすることを目的として研究を行った。ランダムに抽出された 2,967 人の要介護認定調査結果のデータ及び地域包括支援センターでケアプランを作成した要支援 1 および要支援 2 の 500 人の基本チェックリストの口腔関連項目の該当状況のデータを対象として、効率的な口腔機能向上の対象者の抽出方法を検討した。要介護認定調査の口腔関連 3 項目（嚥下、食事摂取、口腔清潔）が該当する者の割合（自立以外であるもの）は要介護度が重度になるに従って増加を示した。要支援 1 の口腔清潔の該当率は 0.6%と低かったが、上肢の麻痺等の状況を検討した結果、口腔清潔が自立と判定された者の中に口腔清掃に問題がある者が多く含まれている可能性大きいと考えられた。要支援者の抽出方法として基本チェックリストの利用の有効性を検討するため、口腔関連の該当数の調査を行い、その有効性が示唆された。要支援者・要介護者の口腔機能向上の対象者を、利用者や介護関係者に新たな負担を生じない効率的に抽出する方法として、要介護認定調査結果口腔関連 3 項目（嚥下、食事摂取、口腔清潔）と基本チェックリストの利用が有効であり、それにより口腔機能向上サービスの普及が促進されると考えられた。

この研究結果は、平成 21 年の介護報酬改定における口腔機能向上の対象者の条件の明確化の基礎資料となった。

A.目的

平成 18 年度および平成 19 年度の調査度の市町村、地域包括支援センター、サービス提供事業所、介護支援専門員に対する調査により、要支援者・要介護者の口腔機能向上の対象者の条件が明確でないため対象者数が少なく、口腔機能向上実施の大きな阻害要因であることが明らかとなった。平成 19 年度は歯科の専門職以外でも簡便かつ短時間で口腔機能向上の対象者を抽出できる「口腔機能のチェックシート」を考案した。しかし、新たに口

腔機能に関する質問、検査等をすべての要支援者・要介護者に追加して行うことは負担が大きく困難である。従って、新たな負担の無いすべての要支援者・要介護者に対して実施可能な対象者の抽出方法の必要性は高いと思われる。

本研究は潜在化している要支援者・要介護者の口腔機能向上の対象者を、利用者や介護関係者に新たな負担を生じない効率的に抽出する方法を明らかにすることを目的とする。

## B.方法

1. 新たな負担を生じない効率的に抽出する方法として、既存の調査結果等の口腔機能関連項目の利用を検討した。すべての要支援者・要介護者に関して要介護認定調査結果は存在し、口腔機能に関連する3項目（嚥下、食事摂取、口腔清潔）が含まれている。また、すべての要支援者には基本チェックリストが存在し、口腔機能に関連する3項目（13. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（咀嚼）、14. お茶や汁物等でむせることがありますか（嚥下）、15. 口の渇きが気になりますか（口腔乾燥））が含まれている。要介護認定調査結果と基本チェックリストの口腔関連項目の利用を検討した。

2. 平成20年7月1日から平成20年8月31日までに認定支援センターに送信された要介護認定調査結果からランダムに抽出された3,000人のデータを検討した。非該当であった33人は対象から除き2,967人のデータを対象とした。口腔機能関連項目および口腔清掃に問題を生じやすい上肢の麻痺等について検討した。氏名住所等の個人情報は含まれず匿名化されたデータであった。

3. 日本歯科衛生士会の協力により、地域包括支援センターでケアプランを作成した要支援1および要支援2の対象者の基本チェックリストの口腔関連項目の該当状況のデータを収集し、検討した。要支援1は251名(男64名、女187名)、要支援2は249名(男58名、女191名)の500名を対象とした。氏名住所等の個人情報は含まれず匿名化されたデータを収集した。

## C.結果

1. 口腔関連の3項目（嚥下、食事摂取、口腔清潔）が該当する者の割合（自立以外であるもの）を検討した。認定調査票で口腔機能関連3項目の判定結果を表1と表2に示す。

1) 口腔関連の3項目該当する者の割合は要支援1が4.5%（嚥下、食事摂取、口腔清潔）、要支援2が18.9%、要介護1が21.1%、要介護2が53.6%、要介護3が88.0%、要介護4が99.2%、要介護5が100.0%であった。要介護度の重度化に伴い該当率が増加している。

2) 要支援1の口腔清潔は0.6%の該当率であった。

3) 要支援2の口腔清潔は5.1%の該当率であった。

2. 要支援1、要支援2について、口腔清掃に問題を生じやすい上肢の麻痺、肩・肘の関